

宝塚市まちづくり協議会代表者交流会（令和6年度・第5回）議事概要

日 時 令和6年（2024年）9月11日（水）14:00～16:06

場 所 宝塚市役所第二庁舎1階 会議室A・B

出席者

<まちづくり協議会>

まちづくり協議会名	参加者名・役職	参加方法	
		対面	オンライン
仁川まちづくり協議会	綿 昭人会長		
宝塚市高司小学校区まちづくり協議会	川島 昭会長	●	
宝塚市良元地区まちづくり協議会	平田 武二会長	●	
宝塚市光明地域まちづくり協議会	小林 敏明会長	●	
宝塚市末成小学校地域まちづくり協議会	加藤 富三会長	●	
宝塚市西山まちづくり協議会	久保田 洋一会長	●	
まちづくり協議会コミュニティ末広	豊田 茂男代表	●	
宝塚第一小学校区まちづくり協議会	山本 敏晴会長	●	
逆瀬台小学校区まちづくり協議会	石谷 清明会長	●	
宝塚市すみれガ丘小学校区まちづくり協議会	島津 早苗代表	●	
宝塚小学校区まちづくり協議会	喜多 毅会長	●	
売布小学校区まちづくり協議会	赤阪 俊一会長	●	
小浜小学校区まちづくり協議会	藤本 真砂子会長	●	
宝塚市美座地域まちづくり協議会	糸瀬 豊光代表	●	
安倉地区まちづくり協議会	岡本 康夫会長	●	
宝塚市長尾地区まちづくり協議会	阪上 良彦会長	●	
中山台コミュニティ	松下 義弘会長	●	
宝塚市山本山手地区まちづくり協議会	奥野 廣明政策室長	●	
宝塚市長尾台小学校区まちづくり協議会	前田 幸夫会長		
宝塚市西谷地区まちづくり協議会	二井 久和会長	●	

<その他>

市民交流部 藤田次長

市民協働推進課 新城課長、岡田係長他

観光にぎわい課 嘉村課長、村田係長、中村職員

公園河川課 児玉係長、藪内職員

総合防災課 大芝係長、岩崎職員

宝塚NPOセンター 平岩氏

宝塚市社会福祉協議会 太田係長

傍聴者 なし

議事概要（要旨）

1. ウィルキンソンタンサン腕組み乾杯参加者募集（観光にぎわい課・ワーキンググループ）

観光にぎわい課より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。意見交換の内容は以下のとおり。

ア 個人での申し込みということか。

イ （観光にぎわい課）団体、個人どちらでも申し込み可能。

2. 宝塚市パークマネジメント計画における公園区計画モデル地区の選定について（公園河川課）

公園河川課より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。意見交換の内容は以下のとおり。

ア 昨年、パークマネジメント計画の件で話を伺った際は、まず20のまち協で公園計画をたてて、その後1つモデル地区を選ぶため今年に各まち協へお伺いすると聞いていた。しかし、先ほどの説明ではそういった話はなかった。また、評価表は誰が作成したのか。

イ （公園河川課）評価表は、業者が委託業務の中で作成した。作成されたものは公園河川課が確認した上で審議会に諮り、決定した。

ウ 全くまち協には知らされておらず、各地域の特性等は見ずに評価されている。例えば、「子育て世代の継続的な居住」の項目の評価は疑問に思う。

エ （公園河川課）この項目の評価点の付け方として、今後10～20年後も継続しているかという視点で評価している。山手台地域は戸建てが多いことから、人口の入れ替わりがないであろうという想定で、子どもが継続的に居住するかという観点でみると居住はないという評価となった。

オ モデル地区に選ばれなかったということに対して不満は言わないが、最初伺っていた話とは全く違う話になっている。過去に公園に関する要望を市長に対して提出したが、市長からは主旨には賛成するが予算がないため対応できないという回答をもらっている。こういう状況であるのに、パークマネジメント計画に今後参画して公園の整備等の対応はしてくれるのか。

カ （公園河川課）予算の問題はあるため、必ず対応するというのは難しい。令和7年度はモデル地区の公園区で重点的に実施し、令和8年度以降にモデル地区以外の公園区で実施していく予定である。モデル地区の公園区の進捗状況によって1年に対応できる公園区の数も明言できないため、モデル地区以外の公園区については実施時期の明言はできかねる。

キ 各まち協の評価について、各まち協に意見は聞いているのか。市と業者だけで決めたのか。

- ク （公園河川課）各まち協に意見は聞いていない。既存のデータやアンケート調査を行った結果等の客観的なデータを重要視し、市と業者で評価した上で審議会に諮った。
- ケ どういったアンケートか。
- コ （公園河川課）まち協向けのアンケートではなく、一般市民向け、子ども向け、子育て世代、団体向けの4種類のアンケートを行った。公園区の人口比率に合わせてアンケートを無作為に配布した。
- サ 私の地域は、現状小学生が1,100人いて、再来年には640戸のマンションが建設予定であるため、子どもは約10年間は減らないと言われている。また、校区を変更するか、学校選択制がとられる状況である。また、宝塚市内でマンションの資産価値が上がっている地域はこの地域だけであると示されているなかで、子育て世代の継続的な居住が見込めないというのは、評価は正しいのかと思っている。点数だけではなく、マーケティングをして本質を見て評価していただきたい。この評価を見て残念に思った。
- シ 協働で進めていこうとしていて、まちづくり協議会は何のためにあるのかという根本的なところが無視されている。アンケートを行ったということであるが、まちづくり協議会は評価の時点で関与させてもらえていない。まちづくり協議会ができた背景として、各地域で状況が違うところを埋めていくためにまちづくり協議会ができた。このパークマネジメント計画の進め方については、市の方針に反している。評価方法について、まちづくり協議会に意見を聞くとかえってややこしくなるというニュアンスに聞こえる。実情に基づいた評価であるという説明であれば納得するが、各地域の実情を知る方から評価について疑問が出てくるということは適切な評価方法ではないと思う。市民を納得させたうえで実施していくことが協働ではないのか。
- ス （公園河川課）一番重要視しているのは公平性であり、客観的なデータをもとに評価した。評価表を作成した時点でまち協に対して説明しなかったことは反省すべき点だと思っている。
- セ この計画を進めていく上で、このような流れで進めていくといった事前の共有はあってもよかったのではないかと思う。また、評価の項目自体や評価点が5段階評価ではなく5か0しかないということは適切ではないと思った。この評価を地域に持ち帰って説明をしないといけないことが大変心苦しい。
- ソ （市民協働推進課）モデル地区以外の公園区はどのように進めていくのかということをお心配されていると思う。そこも説明してもらえたらと思う。
- タ （公園河川課）複数の公園区で10回のワークショップをすることは現実的ではないため、1つの公園区をモデル地区として進めていくこととした。モデル地区で進めていくなかで合意形成の方法等を令和8年度以降、他の地区でも実践していけたらと思っている。
- チ そのモデル地区の選び方に納得していない。
- ツ （市民協働推進課）来月か再来月に再度説明に来てもらうことは可能か。

- テ (公園河川課) 可能である。
- ト (市民協働推進課) 再度時間をとって公園河川課から説明をさせてもらいたいと思う。
- ナ (座長) この内容で再度説明をしてもらっても何も変わらないと思うため、座長副座長で意見をまとめて公園河川課と協議したいと思う。
- ニ 一度各まち協の現地に来てもらって話をしてもらうのがいいのではないかな。もう少し時間をかけて進めていけばいいのではないかな。
- ヌ (座長) 座長副座長3名で、今後どのように進めていくか意見をまとめる。まとめた内容は次回以降の代表者交流会で報告させてもらう。
- ネ (市民協働推進課) 必要に応じて座長副座長と公園河川課の協議を設けて、次回以降の代表者交流会で意見交換ができたらと思う。
- ノ (公園河川課) 承知した。

3. 宝塚市まちづくり協議会代表者交流会(令和6年度・第4回)議事概要の確認

各まちづくり協議会代表者により、上記議事概要の確認が行われ、ホームページへ公開することが承認された。

4. 防災の取り組み事例共有(長尾)

長尾地区まちづくり協議会より、標記について、配布資料に基づいて説明があった。意見交換の内容は以下のとおり。

- ア 備蓄品(食料・トイレ等)の管理はどのようにされているか。
- イ (長尾) 食料の備蓄はしていない。テントは新たに19張購入し、3つの各小学校に備蓄している。
- ウ (長尾) 食料に関して総合防災課に質問で、市内7箇所ある備蓄倉庫からどのようにして各避難所に運ぶのか。
- エ (総合防災課) 避難所に配置されている以外の市職員が公用車で備蓄倉庫から各避難所に運搬する想定。ただ、道路の陥没等で通行止めになった場合は、市職員が運搬できる場所まで運び、そこから乗り換えてでも各避難所に届ける想定でいる。
- オ 自主避難場所に常時飲料水を備蓄してもらえないのか。
- カ (総合防災課) 自主避難場所に飲料水等は備蓄しないため、基本的にはお持ちいただきたい。自主避難場所は、危険が差し迫っているから避難する場所ではないという認識で開設する。また長期的な滞在は想定していない。どうしても自宅に帰れず何もお持ちでない場合は、自主避難所に従事している市職員と総合防災課が連絡をとって手配できるようにする。
- キ (座長) 備蓄倉庫内の備品は定期的な点検が必要である。また、地区防災計画をまだ作成されていない地域は、ホームページの様式を参考に、骨格だけでも作成してもらえたらと思う。
- ク (長尾) 参考までに、市内各小中学校にある学校受水槽を防災水槽として使用する

るため、受水槽から蛇口へ水をとってくる装置を設置することが市議会で承認された。令和6年度中に7箇所、令和7年度中に24箇所を整備する予定。

5. グループトーク

市民協働推進課より、標記について説明があった後、各グループに分かれて意見交換を実施。終了後、各グループから意見交換の内容について以下のとおり発表した。

ア (A) テーマ：子どもたちが地域活動で活躍できる機会づくり

夏休み子ども教室の周知や、選挙啓発等のポスターの協力、通学路の美化活動、子ども対象の野菜作りの機会の提供という意見が出た。また、イベント時は、学校の負担を少なくするために、チラシの配布や場所の提供のみを依頼するのがいいのではないかと思う。

イ (B) テーマ：各まち協の組織体制（主な参加団体等）

まち協と自治会との関係はさまざまな形があり、別々で活動している地域や一緒になって活動している地域もある。第一地区は「にこりたす 1Day」という活動をしている。民児協、PTAにも呼び掛けて意見交換できる場を設けている。若い世代をどう取り込むかが課題となっている。まち協と自治会が協働で組織的に取り組むことがいいのではないかと思う。

ウ (C) テーマ：(担い手づくり)

高齢化社会で、どうやって若い人に参画してもらうかという議論をした。あるまち協はこの人と一人を決めて一本釣りで役員を決めるという方法や、私もするから一緒にしようという声かけをする方法、子ども向けの活動の中で親御さんとコミュニケーションをとって参画につなげるという方法も意見として出た。

エ (D) テーマ：(子どものための自習室の開設や学習支援)

美座では、PTA 主体でまち協の活動場所で夏休み宿題教室を土日のみ開設された。西谷は学校以外で子どもが集まれる場所として、「CoCo ハウス」という場所がある。主体はPTAで1階は駄菓子の販売、2階は宿題支援を行っている。売布は教室の不足やPTAとの交流が難しいという課題がある。すみれはPTAとの交流の場として、運営委員会とは別で意見や要望を聞く会を設けている。この会をきっかけにまち協の活動に繋がるケースもあるという情報共有があった。

オ (座長) まち協によってさまざまなやり方、対応をしていらっしゃるため、非常に参考になると思った。今後もグループトークは形やメンバーを変えて工夫しながらできたらよいと思っている。

6. 市民協働推進課からのお知らせ

市民協働推進課より、以下(1)・(2)について、説明を行った。

(1) 地域カルテの更新

(2) 定例会での二次元コード付き代表者交流会次第の配布について

7. 宝塚 NPO センターからのお知らせ

宝塚 NPO センターより、以下(1)・(2)について、報告があった。

- (1) まちづくり協議会ブログ操作マニュアル（スマホ編）の配布について
ア ブログ操作講習会の所要時間はどれくらいか。
イ （NPO センター）30 分から 1 時間程度で実施させていただく。
- (2) 「Canva(キャンバ)を知る!使う!チラシ作り講座」開催のお知らせ
ウ ブログ操作講習会と同時に Canva の使い方の講習もしてもらえるか。
エ （NPO センター）入門編の内容なら説明させていただく。

8. 社会福祉協議会からのお知らせ

社会福祉協議会より、以下(1)～(3)について、報告があった。

- (1) 社会福祉大会 ご案内
- (2) 年末年始地域ささえあい活動助成 ご案内
- (3) 募金百貨店 ご案内

9. その他

特になし。

10. 今後の日程

市民協働推進課より、配布資料に基づき、今後の開催予定について周知があった。